

山口県立山口獣医畜産専門学校

混乱の再スタート

山口獣医畜産専門学校(以下、山口獣医専)では、食糧不足から生徒の健康状態が極度に悪化したため授業を中止し、寮も閉鎖していたが、結局そのまま終戦を迎えることとなった。終戦後、1年生は昭和20(1945)年9月1日より授業を再開、10月には前期試験が実施され後期授業も始まった。2年生は9月末にようやく動員解除となり、10月16日に授業が再開された。また、終戦による措置により陸海軍諸学校出身者や在学者、高等商船学校、外地所在学校の在学者などの編入・転入学が認められた。

教員も復員し、新たな教員も迎え、徐々に体制が整ってきていたが、昭和21年2月に生徒大会開催準備と称して2年生を中心に授業を放棄、学校当局との交渉などにより授業不能の状態が続いた。結局、海老原初太郎校長他3名の教員が辞任し、教員の戦死も重なったため、教員組織の整備は一時中断を余儀なくされた。

海老原校長辞任後、小郡農学校長の青木^{みちひこ}猷彦が山口獣医専の校長も併任することとなった。その後、新たに教員が続々と着任し、教育体制は徐々に整備されていった。しかし、校舎や牧場の整備については県との交渉も進まず、器具器械の購入もままならず、軍からの移管物品で何とか凌ぐ状態であった。

当時、獣医学教育はGHQの公衆衛生福祉部の所轄で、このもとに戦後日本の獣医学教育の改善、向上が図られた。福祉部の担当者による学校視察もしばしば行われたが、山口獣医専の未だ貧弱な設備は大きな問題となっていた。



軍から移管されたリンゲル液

当時の教員たち



伊藤隆治



木脇祐順



北島三郎



小田良治

頓挫した農業専門学校設立計画

戦後の教育改革により新学制が施行されることとなり、山口獣医専でも大きな動きが見られるようになる。

まず、昭和21(1946)年、獣医学教育の刷新と当時の食糧事情に対する関心から小郡農業学校(以下、小郡農校)と山口獣医専とで「農業専門学校」を作る計画が立てられた。先に小郡農校では、11月には山口農専創設期成同盟会が作られ、今後の運動方針や学校経営の構想などが協議された。しかし期成同盟会の計画に青木校長を除く小郡農校の教職員は反対の立場を表明し、対立が深まっていた。

同年12月、この状況の中、山口獣医専の学生は学生大会を開き、設立促進期成運動に立ち上がった。学生たちは、世論に訴える街頭演説を行い、代表者が青柳県知事に請願



青木猷彦校長

書を提出するとともに、NHKラジオ「県民の時間」を利用して、広く県民にその是非を訴えるなど、活発な運動を展開した。

しかし小郡農校側の反対意見も強く、この計画は学制改革の成り行きを見ながら一旦白紙に戻し、新たに提唱された農業大学設立運動へと移行するということが、一応の終止符が打たれた。この問題は校長排斥運動に発展し、青木校長は農業高等学校長の任を解かれ獣医専の校長専任となった。

農業大学設立計画

昭和22年1月、農業専門学校に代わって農業大学設立計画が浮上し、教員も生徒も上京し、関係各方面に陳情を行うなど、積極的な運動を開始した。

やがて学制改革で、国立の新制大学については一府県一大学が原則となり、山口獣医専を国立に移管し、山口青年師範学校とあわせて農学部とすることが田中龍夫県知事から提案された。この提案に対して、一部では反対もあり、結局山口獣医専のみで山口大学の農学部として参加することになったが、小郡の山口獣医専の校地は狭く、設備も依然として貧弱であったため、新たに他に土地と校舎を求める必要があった。



第2回獣医専開学記念祭
(昭和22年6月小郡獣医専にて)

下関移転と農学部への移行準備

農学部設立の土地、校舎について県当局と折衝が重ねられ、下関市の大学誘致運動もあり、進駐軍の撤退で空いた王喜の旧小月航空隊の兵舎が候補に挙げられたが、すぐに移転ができないため、長府町の進駐軍の施設を利用することとし、昭和23(1948)年12月15日に移転した。

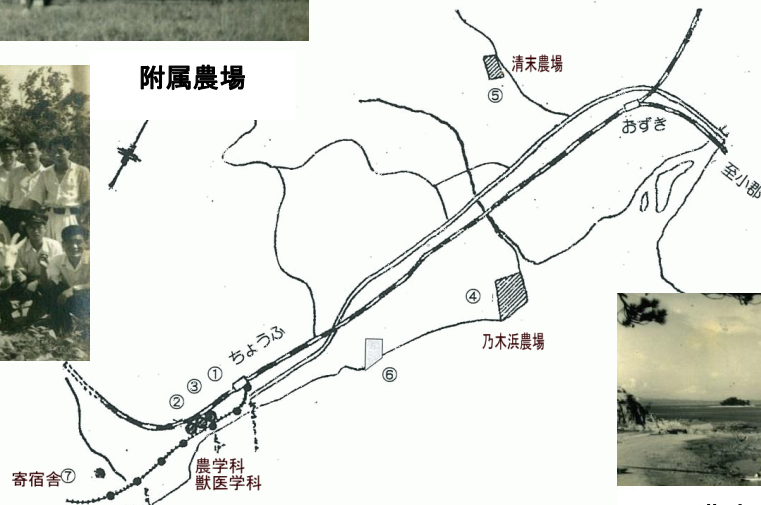
この施設は、戦時中に神戸製鋼長府工場に動員された勤労奉仕青年の寄宿舎であったものを、戦後進駐してきたニュージーランド軍が兵舎及びクラブとして使用していたもので、江下のクラブ跡を事務室とし、前八幡の旧八絃寮を教室と研究室に改造、旧興亜寮を生徒の寄宿舎と食堂として使用した。また、附属牧場は、清末の下関農業会の旧試験農場を買収してこれにあてた。



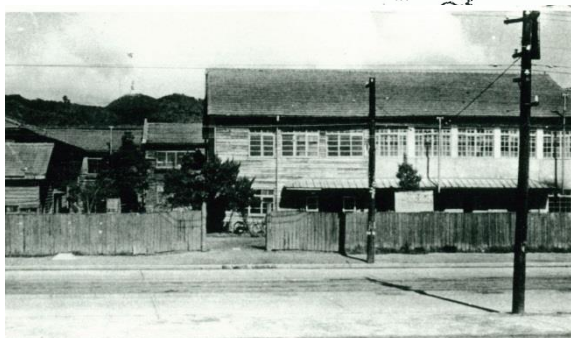
山陽電気の路面電車



附属農場



満珠・干珠



獣医学科校舎



移転感謝祭

昭和24(1949)年3月20・21日、長府への移転を記念して、山口獣医専では移転感謝祭を開催した。



(上)音楽会 (下)活花展



山口大学農学部へ

移転後、設備の整備充実に努め、大学設置委員会の審査を受けた結果、昭和24年4月1日、農学科と獣医学科からなる農学部の設置認可を文部省より得た。10月施行の獣医師法により、正規の大学において4年以上にわたる獣医学の課程を修めて卒業し、国家試験に合格することが獣医師免許の条件となったが、移行措置として、昭和23年4月以降の獣医専の入学者のため農学部に1ヶ年の専攻科を設置した。

山口獣医専は農学部への昇格が決まった昭和24年度から生徒募集を中止したため、昭和27年3月、専攻科の生徒を送り出し廃止となった。昭和19年の発足からわずか8年という非常に短い間であったが、第1回から第5回まで202名の卒業生を社会に送り出した。



山口大学農学部開学記念祭